

白山ふるさと文学賞

第九回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 優秀賞

将棋のお母さん

松任小学校五年

澤野さわの

莉輝りつき

僕のお母さんは、将棋でいう「金将」みたいな人です。家では「王将」で、僕に分からないことを教えてくれる時は「歩兵」です。

仕事面の金将は、お母さんは社員だけど一生懸命働いているからです。お母さんは、仕事で疲れていても、家事の洗濯やごはんを作ることで頑張っていてすごいと思います。金将は成れないのがお母さんに似ているけど、金将は後ろ右ななめと、後ろ左ななめ以外は進めるので、金将にしました。

家のほうでは、王将です。王将のようにリーダー感があつて、お父さんにまけないくらい大黒柱だからです。お母さんは僕に、「手伝つて。」

と、言いますが、それでも僕のお母さんはリーダーシップがあり、頼れるそんざいです。

僕は、遠足のお弁当をお母さんに作ってもらった時にはいつも、どこかにメッセージが書かれていて、それを読むとちよつとてれくさくなります。けれどとつてもうれしく感じます。そして、そのメッセージのおかげで午後の時も楽しく遊べます。

「りつ、遠足楽しいか？ いっぱい遊ぶんやぞ。」

こんなことが書いてあつたりするので、いっぱいいっぱい、遊びます。嬉しい気持ちでいっぱいです。

でも僕はお母さんを裏切ったことがあります。たとえば、ゲームをやりすぎたり、うそをついたりして、裏切つてしまいます。実は僕は、何回もお母さんにうそをついてしまい、お母さんを裏切つてしまいます。何度も。何度も。

だけどお母さんは、いつも許してくれます。何回も、何回も、許してくれます。僕はいつも、ごめんと思つています。僕はいつも、謝つて許してもらつているので、たくさん申し訳ない気持ちでいっぱいです。そういう所が、王将に思つた理由です。

最後は「歩兵」です。歩兵は、成らないと1こしか前に進めません。

僕は、勉強、宿題などで、分らない時がありました。それは4年前ぐらいの出来事です。

「ママ分かないところ教えて。」

宿題していて、そう言いました。僕が分らない所を言うと、優しく教えてくれました。僕は分かつたのがうれしかったので、お母さんにこう言いました。

「ありがとう。おかげで分かつた。」

そういうとお母さんは

「どういたしまして。」

と言つて、笑つてこう言いました。

「一歩ずつ進んでいったらいいよ。あせつたら、あぶないよ。」

と言つたのが、心に残っています。

僕はいつも、「成つた」お母さんに頼つて、頼りまくっています。最近仕事から帰つてくる時間が早くなっています。だけど、とつても疲れて帰つてきています。

「ただいま。」

という声は元気です。その声を聴いて、疲れているのに、元気だなあと思っています。その声を聞いて、よく日、僕も学校を頑張れます。

「行つてきます。」というと、お母さんは、あまり寝れてないのに、

「いつてらつしやい。」

という元気な声です。その声、つまり女神のような声に、

「頑張つて行つてきます。」

と言つて、その日一日、学校をとつても頑張れて今もきています。

僕は、保育園の時に自転車をこいでいると、タイヤに足がはさまりました。僕が泣いていると、お母さんは、

「大丈夫。」

と笑いながら言いました。僕は、その時何故笑っているかわかりませんでした。ですがこの年になると、僕の痛みを笑つて吹き飛ばそうとして

いたのかもしれないと思い始めて、笑っている理由が分かったとき、「そういう理由だったんだ。」

と小声で言っ、うれしく感じました。

僕はお母さんに何度も助けられました。いろいろな思い出をふり返って、嬉しかった事などがあつたので、僕は、将棋の「歩兵」「金将」「王将」の三つにたとえてみました。お母さんは疲れていても僕の前では、優しくかったり、きびしかったりして、疲れていても食器洗いや洗濯、そうじなどを一生懸命やっています。すごいと思います。

僕のお母さんは、メリハリがつく、テキパキしたかっこいいお母さんです。僕の自慢のお母さんです。いつもありがとうと言いたいです。

僕のお母さんは僕の人生にかかせない、すごい存在になっています。

いつも感謝しています。ありがとう。

